

執筆にあたっての留意事項

(平成15年11月26日一部改正)

(平成28年1月1日一部改正)

全ての投稿論文は論旨が明確でかつ一貫し、記述はくり返しを避け簡明である必要がある。原稿はA4の原稿用紙にワードプロセッサを用いて記入する。文章は現代仮名づかいにしたがって仮名混じりとする。外国語の固有名詞は、外国語そのままを用い、病名、化合物名(薬品名を含む)は、学会等に慣用された日本名がある場合には、これらを用いるのを原則とする。該当する日本語がない場合は外国語のまま書く。原語の場合は小文字(固有名詞やドイツ語の頭文字は大文字)とする。普通名詞は文頭に限っては小文字とする。外国語の言語綴は行末で切れないようにする。変換できない文字や記号は手書きで明瞭に書き入れる。フォントサイズは12ポイントを使用する。フォントの種類は、原則として和文はMS明朝体、英文はTimes New Roman体を使用する。

邦文の句読点は点(、)マル(。)を、英文の場合はカンマ(,)ピリオド(.)を使用する。

投稿に際しては表紙(第1ページ)に必要事項を記載し、後述する順とする。

[第1ページに記載する事項、必要によって2ページ可]

表題(邦文)

執筆者名(邦文)

所属と住所・TEL (内線まで)、FAX

所属(別刷請求先)と連絡先が異なる場合、連絡先の住所・TEL・FAXも記載する。

指導者名(必要のある場合のみ)

キーワード:3語以上5語以内を日本語で記述し、選択に際しては医学用語辞典(南山堂)を参考とする。

例:脊髄反射

原稿の種類(①原著、②総説、③ミニレビュー、④症例・臨床報告、⑤特別講演・最終講義、⑥プラザ、⑦シンポジウム・学会・研究会報告、⑧資料)の別

別刷部数(30部・50部・100部・150部……)

編集や印刷上の注意事項があれば朱書で指示する。ページ番号は原稿の下の余白中央部分にタイトルページから始めて連番で付ける。大型ゼムクリップあるいはバインダークリップでとじ提出すること。

1. 原著論文(邦文)

[表題]論文の内容を表記した簡潔で明瞭な表題をつける。

(“……の研究”)というようなおおざっぱな表記は避け、新事実を明瞭に表記することが望ましい。

表題に略語の使用は好ましくない。認められている酵素名や同位元素は略字又は記号を用いる。

30字を超える表題の場合は、30字以内の(Running title)をつける。

[要旨]改ページし、読者が一読して論文の主旨がわかるように簡明に記載する。論文の内容により[要旨と結論]とすることは可能。400字以内が望ましい。

〔はじめに〕改ページし、研究の位置づけを明記し実験・研究の目的を明示する。しかし過大な歴史的考察は好ましくない。

〔研究材料および方法〕改ページし、材料、用いた方法、手法、実験条件などについて、正確かつ簡略に記述する。すでに発表されている操作方法、実験術式などについては、とくに改良法、変法でないかぎりその文献を引用する。重要な使用機器の場合は、名称の後に製造会社名、外国製の場合は国名までカッコ書きで記入することが望ましい。

〔結果(成績)〕改ページし、緒言で記載した研究目的と結果の記載は論理が一貫しなければならない。内容は、できるだけ図・表にとりまとめ、とくに注意を喚起すべきもの以外は、本文でそれらの数値を繰返し記述する必要はない。実験材料の供与を受けたり、実験の一部が他人の協力をえたような場合は、そのことを該当ページ脚注あるいは謝辞として明記する。

※章には番号を記入せず、節・項等の区切の番号は、次の順序で用いること。1>1)>(1)>①

- 1) 図・表・写真 一つのFigureあるいはTableは必ずそれぞれ1枚の用紙に印刷し、印刷面の用紙表面にFigureあるいはTable番号を記す。用紙はそのまま印刷できる鮮明なものとし、光沢のある白い印刷紙の上に焼き付けたものか、それに準じたもの(ワープロ等)とする。手書きは受け付けない。写真の場合、大きさは原則として手札またはキャビネ判とする。図・表の縦罫線は用いない。横罫線は必要最小限にとどめる。電子顕微鏡及び光学顕微鏡写真にはスケールバーを写真の中に示すこと。図・表・写真は執筆者名、図・表番号、天地の指示(上下あるいは矢印)、及び写真はモノクロあるいはカラーの別を、シールに明記して個々の裏に貼る。一括して封筒に入れ原稿と共に提出する。特に大きさや配置に希望のある場合は別にレイアウト表を提出すること。図表の挿入箇所を、本文原稿の右欄外に赤ペンで指示する。
- 2) 図・表の名称 Fig.1, Table 1として、本文中と図・表の名称を統一すること。図・表のタイトル及び説明文は写真版に含めず、後述する〔図・表の説明〕に記載する。なお、定量的な実験あるいは検査の記述は表よりグラフを用いたほうがよい。同一のデータを図と表の両方で示すことは避ける。
Figure: 写真・グラフ・スキームなど
Table: 表・箇条書・数値一覧など
- 3) 単位・符号 原則として単位、符号に関しては1987年7月1日告知された国際度量衡法(SI)で表記する。

(1) 接頭語には次のものを用いる。

$$10^{-18} = \text{a (atto)} \quad 10^1 = \text{da (deca)}$$

$$10^{-15} = \text{f (femto)} \quad 10^2 = \text{h (decto)}$$

$$10^{-12} = \text{p (pico)} \quad 10^3 = \text{k (kilo)}$$

$$10^{-9} = \text{n (nano)} \quad 10^6 = \text{M (mega)}$$

$$10^{-6} = \mu \text{ (micro)} \quad 10^9 = \text{G (giga)}$$

$$10^{-3} = \text{m (milli)} \quad 10^{12} = \text{T (tera)}$$

$$10^{-2} = \text{c (centi)} \quad 10^{15} = \text{P (peta)}$$

$$10^{-1} = \text{d (deci)} \quad 10^{18} = \text{E (exa)}$$

(2) 度量衡の単位は

- ① 重さ: t, kg, g, mg, μ g, ng, pgなど
- ② 長さ: m, cm, mm, μ m, nmなど
- ③ 容積: l, dl, ml, μ l, nl, pl, flなど
- ④ 濃度: g/l, mg/l, mol/lなど
- ⑤ 時間: d, h, min, s, ms(日時、分、秒、ミリ秒)など
- ⑥ 電気諸単位

(volt): μ V, mV, V, kV, MV,

(ampere): μ A, mA, A, kA,

(ohm): m Ω , Ω , k Ω , M Ω ,

(watt): μ W, mW, W, kW, MW,

(farad): pF, μ Fなど

- ⑦ 放射線等の単位: l Gy, l Bq, l C/kg, l Sv

但し、障害防止に関する法令についての記述には、その法令に規定している単位を用いてよい。核種の表記は、元素記号の左肩に質量数を書く。例(\cdots Tc-, \cdots Ga-)

磁器共鳴に関する撮像や記号取得の条件は、次のように書500/30/4(TR/TE/excitations)あるいは1500/300/30/1(TR/TI/TE/excitations)の様に表現する。

[考察]改ページし、得られた結果についての客観的論述をするためサブタイトルをつけ結果のどの部分の考察かをわかりやすく記述する。単なる歴史的考察、仮説的論議はさける。

[結論]改ページし、論文の結論を記載する。箇条書が望ましい。また論文の内容により前述したように[要旨と結論]とし(表題)のあとに記載してもよい。

[COI申告の開示]

1)COI申告開示の記載場所:

著者のCOI 状態の開示は、発表論文の本文の次に記載し、その後に謝辞、引用文献を記載する。

2)COI申告開示の仕方:

(1)申告開示のない場合

記載例: 著者のCOI(conflicts of interest)開示: 本論文発表内容に関連して特に申告なし

(2)申告開示のある場合

COI(conflicts of interest)申告開示: 報酬, 株式利益, 特許使用料, 講演料, 原稿料, 研究費・助成金, 寄付金, 寄付講座, 旅費・贈答品の順番にて, 著者名ごとに論文発表内容に関連しCOI状態(項目ごとに基準額を超えている場合)にある企業・組織または団体名を記載する。

記載例: 著者のCOI(conflicts of interest)開示: 東医太郎; 講演料(東医製薬), 寄付金(東医製薬, 東医八王子製薬), 講演料(東医製薬), 研究費・助成金(東京製薬), 寄付金(東医薬品), 寄付講座(東医製薬), 旅費・贈答(東医製薬)

〔謝辞〕できるだけ簡潔にし、ここに研究費の出所なども記載する。共同著者に対する謝意は避ける。

〔略語〕本誌の性格上、略語は関連領域では周知のものであってもなるべく避けること。略語を使用する場合は、論文中の始めに出てくる個所でスペルアウト(無省略語)し、以下を(……と略す)と断りを入れる。多くの略語を頻繁に使用する場合は、略語一覧表を付けることが望ましい。

〔文献〕改ページし、本論文の内容ととくに関連するものを選択する。本文中では引用文献順とし、… …という報告がある^{1,2)}のように肩に番号をふる。執筆者を記載する場合執筆者が2名の時は2名を3名以上の時に第一執筆者の記載(Smithら¹⁾あるいはSmith et al¹⁾)にとどめる。

〔文献表記〕本文とは別とし、いずれの場合も統一したスタイルで記載することが必要である。スタイルは、バンクーバー方式(姓・名の順)とする。論文のタイトルの文頭のみ大文字とし、あとは小文字で書く。本文の引用順に著者名:題目。雑誌名巻: 始ページ終ページ,発表西暦年号の順に記載する。単行本の場合は、著者名:題目。書名(編者名) 引用ページ、出版社名(場所)、発行西暦年号とする。

雑誌名は公式の略号を用い、巻((号)は不要)・頁・年の順に書く。頁のつなぎは「-」(ハイフン)とする。雑誌名の最後にはピリオドをつけない。文献表(例)では原則として全ての執筆者名を書く。(et al・他)などの表記はさける。

雑誌名の省略方法は国際基準を参照とするが、国別により表記方法が異なるので、注意する。電子資料による参考文献の場合はインターネットアドレスを記載する。

英語論文で日本語文献を引用する場合には「In Japanese with English abstract」と表記する。

1) Robins SL: Textbook of pathology. Saunders, London, 124-136, 1967

2) Couniban T, Messer AL, Sprague HB: The initial vibrations of the first heart sound. Circ Res 3: 730-732, 1968

3) Link GKK: Bacteria in relation to plant diseases. Newer knowledge of Bacteriology and Immunology. (Eds) Jerdan EO and Falk IS, Univ Chicago Press, Chicago, 590-606, 1967

4) 小柳泰久、長江逸郎、多村幸之進、吉松昭彦、伊藤伸一、青木達哉、木村幸三郎:先天性胆道拡張症に対する肝門部肝十二指腸吻合。東医大誌51:576-583, 1993

〔図・表の説明〕図・表の説明は全て英文とする。改ページし、「図・表・写真等の説明」のページを設け、各図・表・写真の説明を読んだ読者が図・表の内容がわかるように記載する。また説明だけでなく Figure や Table 中の記載も全て英文表記とする。

〔英文抄録〕英文による表題・執筆者名・所属・要旨・キーワードをつける。

邦文原著の最終ページに記載する。

要旨は読者が一読して論文の主旨が明確にわかるように 300 語以内にまとめてダブルスペースにし、A4 版の用紙を用いる。日本で特有の薬品テスト方法などについてふれる場合は、本文中にその説明がなくてもできるだけ説明を加える。数字が文頭にある場合はスペルアウトし(例):1→one)、文章中ではアラビア数字を用いる。キーワードは 3 語以上 5 語以内とする。例:Spinal reflex (最初の文字は大文字とする)。選択に際しては Medical Subject Headings, Index Medicus を参考とする。

〔原著が英文の場合〕論文作成上の注意は原著(邦文)に準じる。本文は A4 ダブルスペースで 30 枚以内、刷り上がり 10 ページ(原稿用紙 3 枚で刷り上がりが約 1 ページとなる)以内とする。日本語による表題・執筆者名・所属・要旨・キーワードをつける。日本語要旨約 800 字とする。なお外国からの投稿論文の場合日本語要旨を省くことができる。

注意事項

※タイトルは文頭のみを大文字で記載する。

例: Percent wall thickness evaluated by Gd-DTPA enhanced cine MRI…

※60 字を超える表題には 60 字以内の Running title を付ける(スペースも 1 字と数える)。

※副題は出来るだけ使用しないようにし、やむを得ず使用する場合は本タイトルとの間をコロン(:)で区切る。

※筆者及び指導者名は例に準じる。

例: Taro OKADA

※コロン(:)及びセミコロン(;)の次に 1 字分のスペースを入れる。

2. 総説

論文作成上の注意は原著論文(邦文)に準ずる。ただし、引用論文をアルファベット順にしてもよい。すでに発表されている図を引用する場合、出版社のサイン・印のある掲載許可証を添付すること。(外国出版社へは許可証(例)を2部送り、1部は出版社が保管し、1部は筆者に送られてくる。)

3. 最終講義・特別講演

講演者が、本投稿規定を参考に論文を構成する。

4. ミニレビュー、症例報告・臨床報告

本文の作成は、原著論文(邦文)に準ずる。

5. プラザ

医学・医療・医学教育並びに一般教育に関する事柄

学会・医療のトピックスと動向

国際誌に掲載された論文のミニレビュー

医療行政一般に関する事柄

実験研究一般に関する事柄

関連病院の事柄

医師会に関する事柄

留学・国際協力に関する事柄

その他

論文の構成と論文作成上の注意は原著論文(邦文)と総説に準ずるが、内容が多岐にわたるため、著者の責任でこれを変更することができる。

6. 本学で行われるシンポジウム・学会・研究会

講演者が、本投稿規定を参考に A4版用紙を用い記入し、記録媒体とともに提出すること。

7. 資料

本誌編集委員および本学会事務局と相談の上、投稿できる。

【訂正および再投稿について】

- ①編集委員会は投稿原稿について訂正を求めることがある。
- ②訂正を求められた原稿は、指摘された事項に対する回答を別に付記する。
- ③本文内訂正箇所はアンダーラインを引くか、マーカーペンにてわかるようにする。
- ④訂正箇所が初校時と大幅にページが異なる場合は、何ページの何行と示す。
- ⑤訂正後はできるだけ速やかに再提出すること。

【誓 約 書】

東京医科大学医学会
編集委員会 御中

論文名

表記投稿論文は、その内容が今まで他誌に掲載されたことがなく、投稿予定のものでもありません。

本論文は倫理指針に準拠し、データの捏造および剽窃についても行われていないことを誓います。また、利益相反（COI）については、自己申告書に相違ありません。

表記論文が、東京医科大学雑誌に掲載された場合は、その著作権が東京医科大学医学会に帰属することを承諾致します。

令和 年 月 日

筆頭著者署名

1. _____ 6. _____

2. _____ 7. _____

3. _____ 8. _____

4. _____ 9. _____

5. _____ 10. _____

*全著者の自筆署名を筆頭著者、共著者の順に列記してください。

投稿論文チェック表

令和 年 月 日

にチェックを入れ、誓約書、COI 自己申告書とともに論文の一番上につけてご投稿下さい。

筆頭著者名 _____ 所 属 _____

責任者署名 _____

論 文 題 名 _____

原稿種類： 原著 原著(学位論文) 総説 ミニレビュー 症例・臨床報告
 プラザ その他 ()

論文の構成は整っていますか。 該当しない。

(和文原著の場合…表題、要旨、はじめに、研究材料および方法、結果(成績)、考察、結論、文献、
図表説明、英文要旨)

表題ページから通しでページ番号が記載されていますか。

所属(別冊請求先)と連絡先が異なる場合、連絡先の住所・所属・TEL・FAX を記載していますか。

キーワードは適切なものが記載されており、英和両方揃っていますか(各5語以内)。

和文要旨、英文要旨はありますか。

略語を使用する場合は、初出時にスペルアウトし、以下を(…と略す)と断りを入れていますか。

文献は引用順になっていますか。

文献記載方法に誤りはありませんか。

図表の説明(legend)は別紙になっていますか。

図表(写真)の挿入箇所は、本文原稿の右欄外に赤ペンで指示していますか。

図表(写真)の裏に執筆者名、図・表番号、天地の指示、カラー掲載を希望する場合には、その旨を明記していますか。

誓約書は添付していますか。

責任者または指導者のチェックを受けていますか。また、全ての著者に投稿の了承と同意を得ていますか。

患者のプライバシー保護に関しては、東京医科大学雑誌の指針に準拠していますか。 該当しない。

動物実験の研究では大学動物実験規程(平成19年6月4日制定)を遵守していますか。 該当しない。

利益相反(COI)に関して自己申告書は添付していますか。

著者は全員本学会員で会費は納入済みですか。

論文はオリジナル1部とコピー2部がそろっていますか。

その他、投稿規定の各項目について、もう一度ご確認下さい。

東京医科大学雑誌 利益相反(COI)自己申告書

筆頭著者		施設名 所属名	
投稿論文名			

(投稿時から遡って過去1年以内の発表内容に関する企業・組織または団体とのCOI状態を記載してください。なお、共著者についても記載して提出してください。)

項目	該当の状況	(有)の場合、筆頭者および共著者の氏名:企業名などの記載
企業や営利を目的とした団体の役員、顧問職など報酬額 <small>(1つの企業・団体から年間100万円以上を記載)</small>	有・無	例. 東医太郎:●●●株式会社 東医次郎:◆◆◆製薬株式会社
株の保有および利益 <small>(1つの企業から年間100万円以上、あるいは当該株式の5%以上保有のものを記載)</small>	有・無	
企業や営利を目的とした団体から知的財産権使用料として支払われた報酬 <small>(1つにつき年間100万円以上を記載)</small>	有・無	
企業や営利を目的とした団体から支払われた講演料・原稿料・指導料など <small>(1つの企業・団体からの年間合計50万円以上を記載)</small>	有・無	
企業や営利を目的とした団体が提供する研究費(委託受託研究、共同研究)・助成金など <small>(1つの企業・団体から支払われた年間総額が100万円以上を記載)</small>	有・無	
企業や営利を目的とした団体が提供する奨学(奨励)寄付などの総額 <small>(1つの企業・団体から支払われた年間総額が100万円以上を記載)</small>	有・無	
企業や営利を目的とした団体が提供する寄附講座、産学連携講座との関連の有無 <small>(企業などからの寄附講座に所属している場合に記載)</small>	有・無	
研究とは無関係な旅費、贈答品などの受領 <small>(1つの企業・団体から年間5万円以上を記載)</small>	有・無	

(本COI申告書は論文掲載後3年間保管されます。理由なく東京医科大学雑誌編集委員以外が閲覧することはありません。)

申告日(西暦) _____年 月 日

責任著者 (corresponding author /論文指導者)

(署名) _____ (印)

症例報告を含む医学論文における患者プライバシー保護に関する指針

平成 20 年 1 月
東京医科大学雑誌編集委員会

医療を実施するに際して患者のプライバシー保護は医療者に求められる重要な責務である。一方、医学研究において症例報告は医学・医療の進歩に貢献してきており、国民の健康、福祉の向上に重要な役割を果たしている。医学論文あるいは学会・研究会において発表される症例報告では、特定の患者の疾患や治療内容に関する情報が記載されることが多い。その際、プライバシー保護に配慮し、患者が特定されないよう留意しなければならない。

平成 17 年 4 月 1 日より個人情報保護関連 3 法が施行されたことに伴い、東京医科大学雑誌に掲載される症例報告を含む医学論文については、以下の指針を遵守し、患者プライバシー保護に努めるものとする。

1. 患者個人の特定が可能となる氏名、カルテ番号、入院番号、イニシャルまたは「呼び名」等は記載しない。
2. 患者の住所は記載しない。但し、疾患の発生場所が病態等に関与する場合は区域（神奈川県、横浜市など）までに限定して記載することを可とする。
3. 日付は、臨床経過を知る上で必要となることが多いので、個人が特定できないと判断される場合は年月までは記載してもよい。
4. 既に他院などで診断・治療を受けている場合、その施設名ならびに所在地を記載しない。但し、救急医療などで搬送元の記載が不可欠の場合はこの限りではない。
5. 顔を含む写真を提示する際には個人が特定出来ないように目を隠す。眼疾患の場合は、顔全体が分からないよう眼球部のみを拡大写真とする。
6. 症例を特定できる生検、剖検、画像情報に含まれる番号などは削除する。
7. 以上について配慮することはもとより、個人の特定化の有無にかかわらず、発表に関する同意を患者自身（または遺族か代理人、小児では保護者等）から得る。
8. 前項の手続きが困難な場合は、筆頭著者の所属する施設における倫理委員会もしくは本学医学倫理委員会の承認を得ることが望ましい。
9. 臨床研究など医学系研究の個人情報の取り扱いについては、「臨床研究に関する倫理指針」（厚生労働省）（平成 20 年 7 月 31 日改正）による規定を遵守する。
10. 疫学研究に関しては、「疫学研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省）（平成 19 年 8 月 16 日改正）による規定を遵守する。
11. 遺伝子疾患やヒトゲノム・遺伝子解析を伴う症例報告では「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）（平成 16 年 12 月 28 日改正）による規定を遵守する。

— 記録媒体による論文入力の留意事項 —

査読終了後の完成論文を記録媒体で提出することにより、印刷期間の短縮と制作費の低減につながりますのでご協力下さい。

電子データ提出について

1. 使用記録媒体の種類は特に定めません。
2. 使用 OS: Windows または Macintosh
3. ファイル保存形式: テキスト形式と使用ソフトの保存形式の両方。
4. Table や Fig. を表計算ソフトやドロー系ソフトで作成した場合には、そのソフト名とバージョンを記録媒体に明記して下さい。
5. 必ずバックアップを取って置いて下さい。(郵送中にデータ破損などが予測されます。)
6. 記録媒体には論文受理後訂正の済んだ最終原稿を保存し、論文以外の他の文書等が保存されていないようにして下さい。
7. 記録媒体のラベルには次のことを記入して下さい。
 - ・論文タイトル
 - ・作成者氏名
 - ・所属
 - ・使用 OS
 - ・使用ソフト
 - ・提出年月日

データ入力について

1. 数字とローマ字はすべて半角で入力し、それ以外の和文は全角で入力して下さい。
2. 改行 (Enter) は段落の終わりのみ入力し、文章中の各行毎には絶対に入力しないで下さい。
3. テキスト形式では、肩付き文字、下付き文字、イタリック体、アンダーライン、外字、特殊文字などはキャンセルされますので、それらの文字等はプリントアウトにマーカーで指示を書き込んで下さい。
4. 句読点はコンマ (,) とピリオド (.) を使用して下さい。
5. ー (ダッシュ) と - (ハイフン)、× (カケル) と X (エックス)、I (イチ) と 1 (エル)、O (オー) と 0 (ゼロ) など区別して入力して下さい。

6. 表計算ソフトやデータベースソフトのデータは一部変換できないものがあります。テキスト形式にして保存して下さい。
7. 記録媒体への文書保存は、使用したソフトのファイル形式と、テキスト形式の両方を保存し提出して下さい。

プリントアウトについて

1. 「表紙」「要旨」「はじめに」「研究材料および方法」「結果(成績)」「考察」「結論」「謝辞」「文献」「脚注」「Fig. 説明文」「Table」「Fig.」「英文要旨または日本語要旨」などに分け、各項目ごと改ページにしてプリントアウトして下さい。
2. プリントアウトの書式設定は A4 判で上下の余白をそれぞれ 25 mm ずつ、左右はそれぞれ 30 mm ずつ余白を付けて下さい。
3. フォントサイズは 12 ポイントを使用、文字間隔を広げたり、狭めたりしないで下さい。
4. Figure や Table などレーザープリンターできれいに出力されたものであれば、そのまま写真製版することができます。その場合、文字のサイズは 7 ポイント程度に縮小されることを考慮して文字サイズを決めて下さい。例えば 14 ポイントの文字は 50% に縮小、10 ポイントは 70% に縮小されることを目安として下さい。
5. フォントの種類は、和文は明朝体、英文は Times New Roman 体を使用して下さい。
6. Figure や Table などへの網かけは避けて下さい。
7. 写真はデジタルデータで提出することも可能ですが、ビットマップやピクトの 600 dpi 以上でない印刷品質が保てません。JPEG など高圧縮データは避けて下さい。写真のプリントアウトは写真用光沢紙で高品質出力したものか、写真店にて高品質プリントしたものを添付して下さい。
8. Figure や Table の挿入希望箇所は本文のプリントアウトの右側余白に指定して下さい。